

4. 本市のみどりの特性及び課題

八尾市には山地、農地、社寺の巨樹、公園、河川、住宅地の庭木等、多様なみどりの資源が存在しています。「4-1. 本市のみどりの特性」では、これらのみどりの資源について「自然」「歴史」「社会」の3つの視点でとらえた、みどりの特性について示します。

また、「4-2. 本市のみどりの課題」では、これらのみどりの特性を有する8つのエリアを設定し、そのエリアごとに課題を整理します。

4-1. 本市のみどりの特性

「自然」「歴史」「社会」の3つの視点から、本市のみどりの特性を表11のとおり整理しました。

表 11 みどりの特性

視点	みどりの特性	
(1) 自然	1) 地形・水系	
	2) 植生・生物	
	3) 東部山地の景観	
	4) 田園的景観	
(2) 歴史	1) 歴史・文化	
	2) 寺内町	
	3) 集落	
(3) 社会	1) 公園・緑地等	
	2) 河川・水路	
	3) 道路	
	4) 土地利用	① 駅周辺の市街地
		② 住宅地
		③ 工業地
		④ 農地
	5) 市街地景観	① 都市拠点の景観
		② 玉串川沿いの住宅地景観
③ みどりが点在する平地部の景観		

(1) 自然

1) 地形・水系

本市の東部に位置する生駒山系の高安山は、自然豊かな里山が連続して存在しています。山が急峻で開発が進んでいないことから、比較的良好的な自然環境が保全されており、金剛生駒紀泉国定公園にも指定されています。



生駒山系の自然環境

また、北東部を中心に緩やかな地形に沿って農空間が存在するとともに、本市の東部には細い河川・水路が東西方向に分布しています。平地部には、社寺などに存在する樹林・樹木や農地などのみどりが点在し、これらを繋ぐように河川・水路が網目状に広がっています。

2) 植生・生物

東部山地の植生は、植林が少なく、広葉樹林が大部分を占めており、多様な生物の生息・生育環境となっています。



ニッポンバラタナゴ



大和川堤防

また、山麓地域のため池には、「環境省レッドリスト2020」で絶滅危惧ⅠA類に

選定されているニッポンバラタナゴなどが生息しています。「大阪府レッドリスト2014」にはこれらのため池群のほか、大和川堤防が生物多様性ホットスポットに選定されています。

3) 東部山地の景観

東部山地は、平地部から市街地の背景として望むことができ、その植生は広葉樹林が大部分を占めることから、四季の変化に富んだ良好な山並み景観を生み出しています。



山並み景観



高安山からの眺望

また、高安山上からは、八尾市域を含む大阪平野と大阪湾を見渡すことができ、これも東部山地に関連する八尾の景観の特色のひとつとなっています。

4) 田園的景観

北東部の山麓部には、緩やかな地形に沿って整備された田畑が集積しています。これらの田畑は、花き栽培や植木の圃場としても利用されていることから、八尾の農産業と結びついた特徴的な田園的景観となっています。



山麓部の花き栽培農地

(2) 歴史

1) 歴史・文化

八尾は古くから人が住み続けており、古墳群などの古代の歴史を感じさせるみどりや、集落や神社仏閣とみどりが一体となった特徴的なまちなみが残されています。

山麓部には高安千塚古墳群や心合寺山古墳などの史跡にある樹林地や水辺のみどりが存在し、古代の歴史を感じさせるみどりの景観を形成しています。



心合寺山古墳

2) 寺内町

戦国時代に形成された久宝寺寺内町は、町割りがほぼそのまま残されており、顕証寺や伝統的な民家が並び、社寺・地蔵など八尾市の特徴的な景観を形成しています。これらの歴史的なまちなみと一体となって、神社仏閣の境内の巨樹・巨木が貴重なみどりとして存在しています。

八尾寺内町は、現在、戦国時代の当時の町割りではありませんが、神社仏閣の境内のみどりが存在することや、古くからの商店街に隣接するなど、大和川の舟運や木綿商により栄えた当時の賑わいを感じさせる雰囲気があります。



寺内町

3) 集落

江戸時代には、新田開発が進む中で平地部や山麓部に新たな農村集落が形成されました。

平地部の集落については、街路は狭いながら、神社仏閣や鐘楼等の伝統的な建物が残るなど、歴史を感じさせる資源が点在しています。

また、山麓部の集落については、坂道に沿って石垣が連続しており、特徴的な景観を形成しています。



山麓部の集落



八尾みどりのコラム

八尾市のみどりの成り立ち①「古代から江戸時代」

八尾市の現在のみどりのかたちは、古くは古墳時代から、そして江戸時代、明治時代の歴史的背景の中で形成されてきました。古地図や名所図会などから、みどりの成り立ちにかかわる歴史を調べてみました。

■古代から奈良・平安・鎌倉期

古代には、東部山地を中心に全国で類例のない形の石室を有する古墳がつくられました。これらの古墳群のうち110基が「高安千塚古墳群」として国指定史跡（2015年指定）となっています。また、聖徳太子が建立したと伝えられる大聖勝軍寺をはじめ、当時の歴史を伝える社寺等がみどりとともに残っています。

生駒山系の高安山の山麓部では古代から人が住み続けており、心合寺山古墳などの遺跡や集落とみどりが一体となり、生駒山系のやまなみを背景とした特徴的なまちなみが残っています。

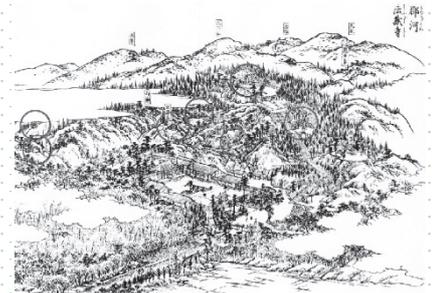
奈良時代には、弓削を出身とする道鏡が、平城京に対する西京を築いて天皇を迎えるために建設した大規模な塔の基壇が発見され、「由義寺跡」として2018年に国指定の史跡となっています。

■室町・戦国・江戸期

戦国時代に形成された久宝寺では、寺内町の町割りがほぼそのまま残されています。顕証寺や許麻神社に存在する巨樹・巨木が、歴史的なまちなみと一体となって歴史性を感じさせる、貴重なみどりとして存在しています。

江戸時代には旧大和川の付け替え工事に伴い、かんがいのための用水路として長瀬川、玉串川が整備されました。これにより1,000haの新田開発が進み、河内木綿の生産地が拡大しました。現在では、その大部分で市街地化が進みましたが、一部残存する農地では軟弱野菜（八尾若ごぼう等）や花き等の栽培が行われ、特徴的な田園景観の一つとなっています。

挿絵：河内名所図会



高安千塚古墳群



大聖勝軍寺



大聖勝軍寺



顕証寺



顕証寺

(3) 社会

1) 公園・緑地等

公園・緑地は、都市の環境保全やレクリエーション、景観形成、防災等多くの機能を有しています。本市には久宝寺緑地などの大規模な公園から、身近にある小規模な公園まで、300箇所以上が整備されており、市街地の貴重なみどりとなっています。

また、庁舎、学校などの公共施設に設けられたみどりのあるオープンスペースは、人々が集まる市民の憩いの場となるなど、市街地における貴重なみどりとして存在しています。



南木の本防災公園

2) 河川・水路

本市の南部に流れる大和川は、国の河川整備計画に基づく堤防の整備などにより、洪水等による災害の発生を防止・軽減する取り組みが進められています。この堤防からは、広がりのある河川景観や平地部の景観を眺望することができます。

また、市街地内には恩智川や玉串川、長瀬川、楠根川等の河川・水路とこれらの支流が多数流れています。これらの河川・水路沿いには緑道が整備された場所も多く、水とみどりを身近に感じられる場所となるとともに、生物の生息・生育環境としても貴重なみどりとなっています。



大和川沿いの自然景観



長瀬川沿いの遊歩道とアジサイ

3) 道路

主要幹線道路のうち大阪中央環状線では、「中環の森プロジェクト」として、大阪府が都市の緑化と地域コミュニティの形成等を目的に、地域のボランティアが中心となった緑化活動を進めています。

また、本市の中心部を東西に貫く大阪港八尾線や大阪中央環状線については、大阪府のみどりの大阪推進計画において「みどりの風促進区域」として位置づけられ、道路等の公共空間と沿道民有地における緑化の促進に努めています。



大阪港八尾線の街路樹

4) 土地利用

① 駅周辺の市街地

高度経済成長期以降、駅周辺の市街地では、工場跡地や農地を活用して規模の大きな集合住宅などの中高層建築物が建設され、近年では竜華地区の区画整理事業による高層マンションの建設、近鉄八尾駅周辺の商業施設の立地などにより、賑わいのある新しいまちなみが形成され、これに伴い街路樹や公園などのみどりが整備されています。



JR 久宝寺駅周辺の高層マンション

② 住宅地

昭和初期まで、玉串川沿いでは、比較的敷地規模の大きい良好な戸建て住宅地の開発が行われました。現在でも敷地形態がそのまま残るところが多く、生垣や庭木などのみどり豊かで潤いのある良好な低層住宅地が存在しています。

一方で、高度経済成長期には、平野部を中心にスプロール的に急速な住宅地化と工場立地が進み、急激な市街化が進みました。現在では、住宅地や開発公園、小規模な工場用地、農地などが混在している状況です。

近年では、市街地内のまとまった農地を転用した土地区画整理事業が行われ、整然と区画された街路で構成されるみどりの多い住宅地が形成されています。



都市農地が残る住宅地



曙川南土地区画整理

③工業地

本市の南部および西部には、工場が多く立地しています。規模の大きな工場が集積して立地している地域では、道路基盤が整い、街路樹も整備されています。しかし、小規模な工場や事業所、住宅が混在して立地する地域では、限られた敷地内では緑化するスペースの確保が困難なことなどから、みどりが少ない状況です。



工業地の街路樹

④農地

本市の農業は、軟弱野菜を中心とする野菜や花き・花木などの農作物の生産を行っています。農業振興地域にも指定されている東部地域では、北部山地から中腹にかけて府内でも有数の花き・花木の生産地となっています。

また、生産緑地は防災、景観向上、環境保全に寄与するなど市街地に残るみどりとして重要な資源です。



市街化区域内の生産緑地



市街化調整区域の農地

5) 市街地景観

①都市拠点の景観

JR 久宝寺駅周辺（竜華地区）は、土地区画整理事業等により、街路樹や公園などが整備され、新しい市街地景観を形成しています。また、JR 八尾駅、近鉄八尾駅、近鉄河内山本駅周辺は、商店街が立地し、近隣住民の憩いやにぎわい及びコミュニティの核となる市街地景観が形成されています。



近鉄八尾駅



JR 久宝寺駅

②玉串川沿いの住宅地景観

玉串川沿いは、戦前から敷地規模が 100 坪程度の良好な戸建て住宅地の開発が行われました。敷地が大きく生垣や庭木などが植栽されている住宅地が多く存在し、玉串川の桜並木と生垣・庭木が並ぶ特徴的な住宅地の景観を形成しています。



玉串川の桜



戸建て住宅地の生垣や庭木

③みどりが点在する平地部の景観

平地部の住宅地は、みどりが少ない状況ですが、身近な公園・緑地や公共施設のみどり、河川・水路、生産緑地などの都市農地といったみどりが点在し、市街地における貴重なみどりの景観資源となっています。これらの多様なみどりが、平地部における八尾の景観の特徴のひとつとなっています。



民間施設の緑化



龍華町東公園



八尾みどりのコラム

「小中学校校歌で歌われる八尾のみどり」

小中学校校歌の歌詞に含まれるみどりは、市民が子どもの頃から慣れ親しみ、誇りや愛着を持つ対象として、どの世代にとっても印象的なみどりとして捉えられていると考え、市内の全ての小中学校（廃校含む 44 校）の校歌に含まれるみどりの名称を調査しました。

歌詞に現れるみどりの名称として最も多かったのは「信貴山（20 校）」、次いで「金剛生駒山系（19 校）」「河内平野（12 校）」と続きました。市内のどこからでも望むことのできる東部山地のみどりや、市域全体に広がる平野といったみどりがよく歌われていることがわかりました。

そのほか「玉串川（4 校）」「大和川（5 校）」「長瀬川（3 校）」「恩智川（2 校）」など、各地を流れる河川も多く歌われており、地域のシンボルとして水辺のみどりが認識されていることがうかがえます。

みどりの歌われ方をみると、「理想高き“生駒峰”」「未来の川へ漕ぎ出そう“長瀬玉串”そのうえたずね」「“信貴の山なみ”仰ぎつつ、高き理想にはばたかん」など、子ども達の成長の目標として、また、「“玉串川”の清らなる」「“大和川”清き流れに身も清く」のように子ども達の規範として表現されているものが多く、八尾のみどりの偉大さや清らかさに子ども達の姿を重ね、健やかに育つことを願う思いをうかがうことができます。

4-2. 本市のみどりの課題

本項では、本市のみどりの特性を踏まえ、市内のみどりの資源がどのように立地しているか把握し、以下に示す通り複数のみどりの特性を有する8つのエリアに分類しました。本計画では、この8つのエリアごとにみどりの課題を検討します。

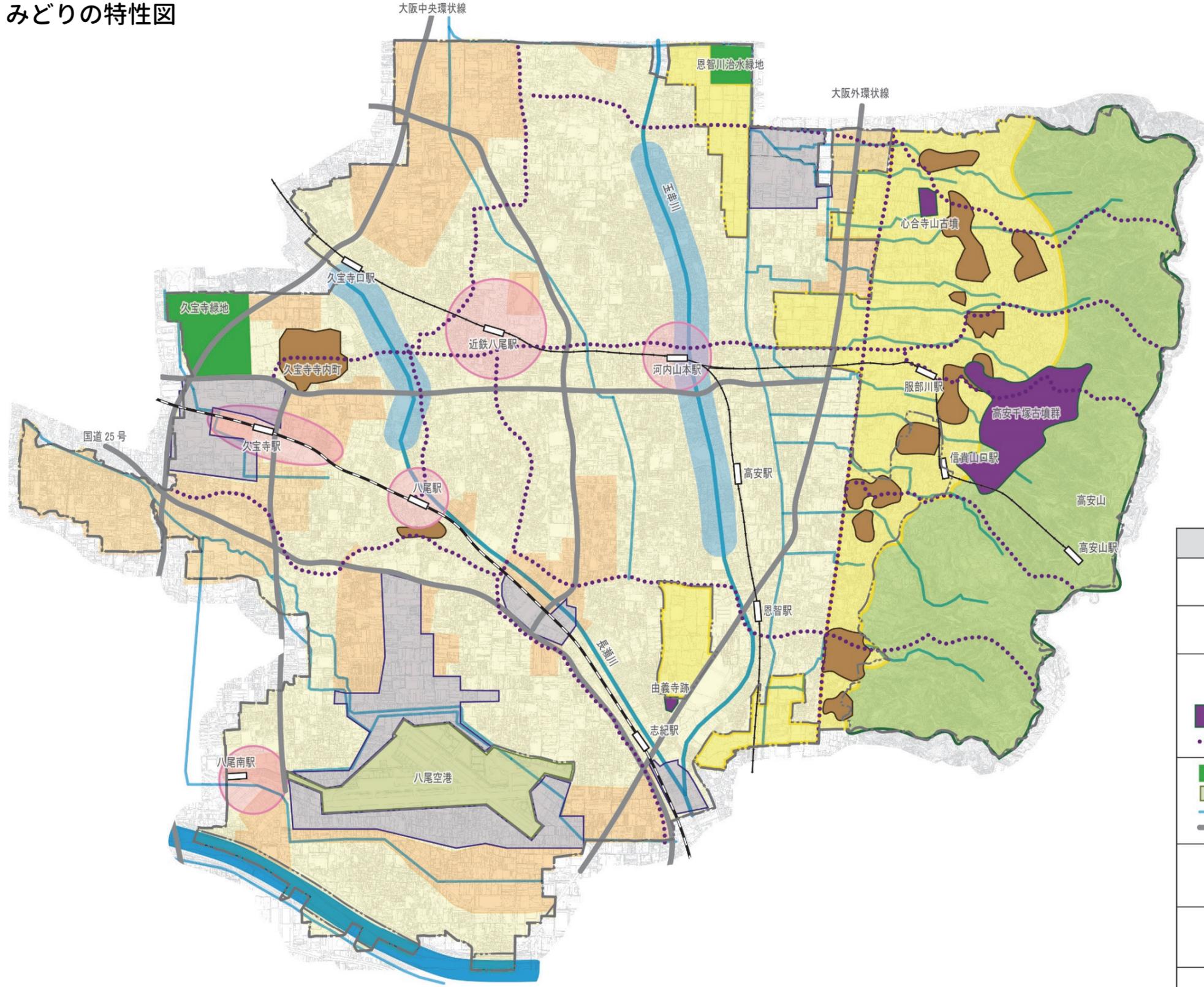
なお、各課題に対応する主な基本施策（P47～60に記載）の番号を、併せて記載します。

表 12 みどりの特性に応じたエリアの分類

<p>1.山地エリア</p> <p>高安山、市民の森、ハイキング道など</p>
<p>2.農業エリア</p> <p>山麓部等の市街化調整区域に広がる農地、ため池など</p>
<p>3.歴史資産エリア</p> <p>高安千塚古墳群、心合寺山古墳、久宝寺寺内町、社寺の巨木など</p>
<p>4.都市基盤エリア</p> <p>大規模公園、八尾空港、幹線道路の街路樹、河川・水路など</p>
<p>5.都市拠点エリア</p> <p>JR久宝寺駅、JR八尾駅、近鉄八尾駅、近鉄河内山本駅、大阪メトロ八尾南駅周辺の広場など</p>
<p>6.水のみどりの住宅エリア</p> <p>玉串川・長瀬川沿いの桜並木、住宅地の庭木、生垣など</p>
<p>7.工業エリア</p> <p>事業所及び工場敷地の植栽地など</p>
<p>8.住宅・工場・農地が混在するエリア</p> <p>身近な公園、公共施設の植栽地、都市農地など</p>

※エリアについては都市計画図における用途地域や八尾市都市景観形成基本計画における景観構造図及び景観ゾーン図に準拠し設定しています。

■ みどりの特性図



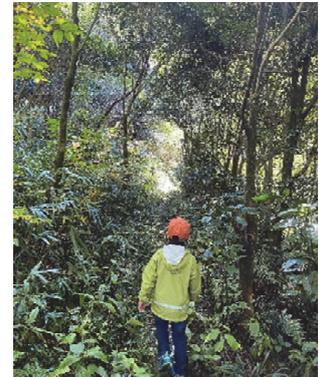
みどりの特性に応じたエリア	
	1. 山地エリア
	2. 農業エリア
国指定史跡 歴史街道	3. 歴史資産エリア
大規模公園 八尾空港 河川・水路 幹線道路	4. 都市基盤エリア
	5. 都市拠点エリア
	6. 水とみどりの住宅エリア
	7. 工業エリア
住・農 住・農・工	8. 住宅・工場・農地が混在するエリア

1.山地エリア

●東部山地・山麓の里山環境の保全

高安山を中心とした東部山地・山麓は、里山や水辺等の生態的に重要な環境が残っていることから、多様な動植物の生息・生育環境となる自然環境の保護・保全が求められます。

⇒対応する主な基本施策 1-(1),1-(4)



東部山地の里山環境

●民間事業者による森林開発の抑制

民間事業者等による森林開発が行われる場合は、自然環境への影響をできる限り抑制し、野生生物が生息・生育できる環境の保全が求められます。

⇒対応する主な基本施策 1-(2)

●自然とのふれあいの場としてのPR

ハイキングルートや市民の森等は、自然とのふれあい等を目的として整備されており、市内外から多くの人を訪れます。このため、これらのみどりを活かして自然とのふれあいの場としての魅力を市民に周知するためのPRが求められます。

⇒対応する主な基本施策 1-(3),1-(4)



自然とのふれあいの場となる市民の森

2.農業エリア

●良好な農空間としての保全・活用

本市の山麓部等に広がる農地は、都市空間にうるおいをもたらす緑地として貴重な資源であることから、良好な農空間として農業振興地域の指定等による保全・活用が求められます。

⇒対応する主な基本施策 2-(1)



山麓地域の農空間

●農地の多面的な機能の確保に向けた遊休農地対策の検討

営農の場としてのみならず、水源涵養や生物の生息・生育の場となるなど農地の多面的な機能を活かして、自然環境の保全、防災、田園的景観の形成等に寄与できるよう、遊休農地の解消や担い手の確保などが求められます。

⇒対応する主な基本施策 2-(3)

●ため池や水辺の生態系を重視した環境保全

山麓には、「環境省レッドリスト 2020」において絶滅危惧ⅠA類に選定されているニッポンバラタナゴなどが生息している水辺が存在します。また、ため池や水辺は農業用水の確保、生物の生息・生育環境の保全、都市の中におけるうるおいのある水辺景観の形成や田園的景観の形成など、多様な役割を果たしています。しかし、農地の減少に伴うため池や水辺の消失により、これらの多様な役割を生み出す多面的な機能の低下が懸念されます。

⇒対応する主な基本施策 2-(2),2-(4)



ため池

3. 歴史資産エリア

●歴史・文化と一体となったみどりの保全・活用

国指定史跡である高安千塚古墳群は、本市の貴重な歴史・文化資源であるとともに市街地への眺望点にもなっていることから、保全・活用が求められています。これらを含めた自然や歴史資産の総合的なネットワーク化が求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(1)



高安千塚古墳群

●史跡の保全・活用

国指定史跡である心合寺山古墳は、歴史・文化的な価値を有しているため、その環境を適切に保全するとともに、近隣住民の憩いの場として、また、ハイキングの起点となるなど市民のレクリエーション拠点としての活用が求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(5)



心合寺山古墳

●集落のまちなみと歴史資産の保全・活用

集落のまちなみとともに歴史を感じさせる地蔵や道標などの石造物や石垣等は、貴重な歴史資産として周辺のみどりと一体的に保全・活用することが求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(7)



山麓部の集落

●久宝寺寺内町の歴史的な景観の保全・継承

久宝寺寺内町は、昔ながらのまちなみを今に伝える景観となっており、歴史資産も多く残されていることから、水・みどりと一体となった昔の暮らしを感じさせる景観として保全・継承することが求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(2)



久宝寺寺内町のまちなみ景観

●保全樹木・樹林の保全

社寺境内地に生育する巨木・樹林地などは、歴史資産と一体となって地域を特色づける重要なみどりで、「保全樹木・樹林」への指定などによる保全が求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(3)



服部川八幡宮の保全樹

●歴史・文化資源のネットワークの充実

点在する歴史・文化資源を市民や来訪者が親しみやすいものとするため、歴史・文化資源を活用した散策ルートや拠点を設定するなど、歴史・文化とみどりのネットワークの充実が求められます。

⇒対応する主な基本施策 3-(4),3-(6)



立石街道

4.都市基盤エリア

●市民の命を守り、多様なニーズに対応できる大規模公園等の充実

久宝寺緑地は、南海トラフ地震を初めとする大規模災害が発生した時に、広域避難場所や自衛隊等の活動拠点となることにより市民の命を守る機能を果たすことが期待されています。

また、普段から市街地における大規模な緑の核として、周辺に潤いを与えるとともに、市民の健康づくりや自然とのふれあい、レクリエーション等の拠点として市民の多様なニーズへの対応が求められます。

⇒対応する主な基本施策 4-(2),4-(3),4-(6)



久宝寺緑地の芝生広場

●大和川における生物の生息・生育環境と利活用場の両立

大和川は、自然のうるおいを感じることができる憩いの場や広がりのある景観を眺望できる場、また、生物多様性保全に寄与する生物の生息・生育の場として、自然や景観を守り育てることが求められます。

⇒対応する主な基本施策 4-(1),4-(6)



大和川わんど

●道路におけるみどりの保全・創出

幹線道路の街路樹は、適正に保全するとともに、緑陰の創出による快適な歩行空間を確保します。

また、大阪中央環状線や大阪港八尾線は、「みどりの風促進区域」として沿道の民有地と一体的にみどりを保全・創出する取り組みが進められており、引き続きみどりによるうるおいのある都市景観及び地域のシンボルとなる景観形成に努めることが求められます。

⇒対応する主な基本施策 4-(4),4-(6)



市道の街路樹

●河川・水路等の水辺空間の保全

河川等の水辺空間は、生物の生息・生育環境や都市景観の形成、水辺とのふれあいの場など多様な機能を有することから、市民に親しまれる水辺空間として保全するとともに、ネットワークの充実が求められます。

⇒対応する主な基本施策 4-(5),4-(6)



長瀬川沿いの水辺空間

5.都市拠点のエリア

●都市拠点に相応しい都市景観の形成

新たな都市拠点の形成が位置づけられているJR久宝寺駅周辺は、大阪中央環状線に接し、JR関西本線及びJRおおさか東線との結節点となることや、大阪東部の玄関口なることから利便性の高い地区です。さらに、周辺には久宝寺緑地、歴史的なまちなみが残る久宝寺寺内町など、みどり資源や歴史・文化資源が点在しています。このため、本地区は今後、魅力ある八尾づくりの象徴として、周辺環境や他の都市拠点との連携を図りながら、みどりの保全や創出、およびネットワークの形成が求められます。

⇒対応する主な基本施策 5-(1),5-(2),5-(4)



JR久宝寺駅周辺商業施設

●駅前の景観の形成

近鉄八尾駅、JR久宝寺駅、JR八尾駅、近鉄河内山本駅、大阪メトロ八尾南駅は、都市拠点として商業機能及びコミュニティの核としての機能を有しています。これらの駅周辺において事業者等と連携・協働し、にぎわいと魅力のあふれるみどりの創出が求められます。

⇒対応する主な基本施策 5-(1),5-(2),5-(3),5-(4)



近鉄八尾駅周辺

6.水とみどりの住宅エリア

●水とみどりの環境を活かした景観の形成

玉串川や長瀬川は、市民にとって印象のある八尾の風景であり、愛着のある場所にもなっています。今後、これらの水とみどりの環境を活かした景観の形成が求められます。

⇒対応する主な基本施策 6-(1),6-(2)



長瀬川沿いの風景

●玉串川と一体となった市街地景観の保全

世界かんがい施設遺産である玉串川は、環境整備が行われ、アメニティ豊かな水辺環境の形成が進められています。特に、せせらぎと一体となった桜並木は、開花の時期には観光名所として多くの市民で賑わっています。川沿いの桜並木は「桜でまちを元気に」「桜でまちを美しく」という地元住民の思いから、昭和40年頃に地元住民により植えられ、育てられてきた経緯があり、川沿いの地域には、良好な水とみどりの住環境とともに地域コミュニティが形成されています。しかし近年、宅地の細分化が進んでいることから、住宅地のみどりや桜並木などが一体となった本市を代表する市街地景観の保全に向けた取り組みが求められます。



玉串川と一体となった市街地景観

⇒対応する主な基本施策 6-(2),6-(3),6-(4)

7.工業エリア

●工場緑化に関する新たな方策の検討

工場集積地には、工場や事業所と住宅地などが近接している箇所があることから、周辺の景観や環境に配慮した土地利用を誘導する中で、工場敷地における緑化が求められます。一方で事業所などでは緑化するスペースも少ないことから、緑地の保全・活用に関する新たな方策の検討が求められます。

⇒対応する主な基本施策 7-(2),7-(3)



工場敷地における緑化

●工場敷地等のみどりの充実・活用

大規模な工場敷地等に存在するまとまりのあるみどりは、地域のシンボルとなる等、貴重なみどりとして保全や充実を図るとともに、その活用が求められます。

⇒対応する主な基本施策 7-(1),7-(3)



大阪広域環境施設組合八尾工場

8.住宅・工場・農地が混在するエリア

●住区基幹公園等のマネジメントの推進

住区基幹公園等は、地域の身近な自然とのふれあい、健康づくり、地域コミュニティの形成、避難地としての機能充実とアクセスの確保や安全・安心な利用環境の確保などを進める必要があります。このため、市民参画による計画づくりや民間活力による公園整備とともに、市民等が主体となった公園の管理運営などストック効果を高める工夫を検討するなど、地域ニーズに応じた公園のマネジメントが求められます。

⇒対応する主な基本施策 8-(5),8-(7)



曙川公園

●市民のニーズに対応した都市公園等の整備

都市公園等は、施設の老朽化の進行に伴う維持管理費の増加が予想されるため、都市公園等の適切な配置や機能集約による更なる機能充実を図るとともに、公園施設の長寿命化による機能保全とライフサイクルコストの縮減に努めることが必要です。

⇒対応する主な基本施策 8-(3)



柏村町二丁目公園

●公共施設におけるみどりの保全、創出、育成

学校の校庭などにおける学校と地域が連携した花壇づくりの機会の創出や緑化資機材の提供、緑化に関する技術的支援、また、庁舎等敷地内におけるみどりの維持管理や新たな植栽など、公共施設のオープンスペースを有効に活用したみどりの保全、創出、育成が求められます。

⇒対応する主な基本施策 8-(2),8-(6)



山本出張所の緑化

●市街地におけるオープンスペースの確保

住宅地や工場地が混在する市街地では、まとまったオープンスペースの確保が困難です。このため、耐震診断及び耐震改修、建替えを促進するとともに、地区計画制度等により、道路や公園等の公共空間を確保し、住環境の改善とあわせて防災性の向上に努める中で、既存の公園、都市農地などのオープンスペースを保全しつつ、その機能の充実を図ることが求められます。

⇒対応する主な基本施策 8-(4)

●生産緑地地区の保全・活用

市街化区域内の農地では、今後の開発進行による減少や、平成4年（1992年）の当初指定から30年を経過する生産緑地の買取申出の増加に伴う減少が想定されることから、生産緑地法の改正に伴う特定生産緑地の指定や、面積要件の緩和により小規模農地をきめ細かに保全・活用できるよう追加指定が求められます。また、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」などを踏まえた貸借による有効活用が求められます。

⇒対応する主な基本施策 8-(1)

●空き地を活用した新たなみどりの創出

空き地は、ゴミ等の不法投棄や雑草繁茂による害虫の発生、地域のイメージの低下、防犯面などの問題が生じる恐れがあるため、空き地の適正管理による活用等により、安全・安心な住環境の形成を図るとともに、新たなみどりの創出方法の検討が求められます。

⇒対応する主な基本施策 8-(4)

八尾みどりのコラム

八尾市のみどりの成り立ち②「明治から令和」

明治以降、戦前からの住宅地開発や高度経済成長期における更なる住宅地化と工場立地が進む中で、今日に残るみどりについて、古写真をもとに見てみます。

■明治以降から昭和初期まで

昭和初期まで、玉串川沿いでは、鉄道事業者により敷地規模の大きい良好な戸建て住宅地の開発が行われました。現在でも、その時の敷地形態がそのまま残っているところが多く、みどり豊かで潤いのある良好な低層住宅地が存在しています。

■戦後から高度経済成長期

一方、高度経済成長期にはスプロール的に急速な住宅地化と工場立地が進みました。このため平野部を中心とした急激な市街化が進展したエリアは、住宅地や開発公園、小規模な工場用地、農地などが混在している状況です。

■高度経済成長期以降から平成・令和

工場跡地や農地に規模の大きな集合住宅などの中高層建築物が建設され、近年では竜華地区の区画整理事業で高層マンションの建設や近鉄八尾駅周辺の商業施設の立地などにより、賑わいのある新しいまちなみが形成され、これに伴い街路樹などのみどりが整備されています。



7 長瀬川及び沿道の整備の様子。今日にもみられる、用水路が両岸に整備されています。写真奥には、樹木も植えられており、この頃から水辺のみどりが一体となった空間が形成されていたことがわかります。



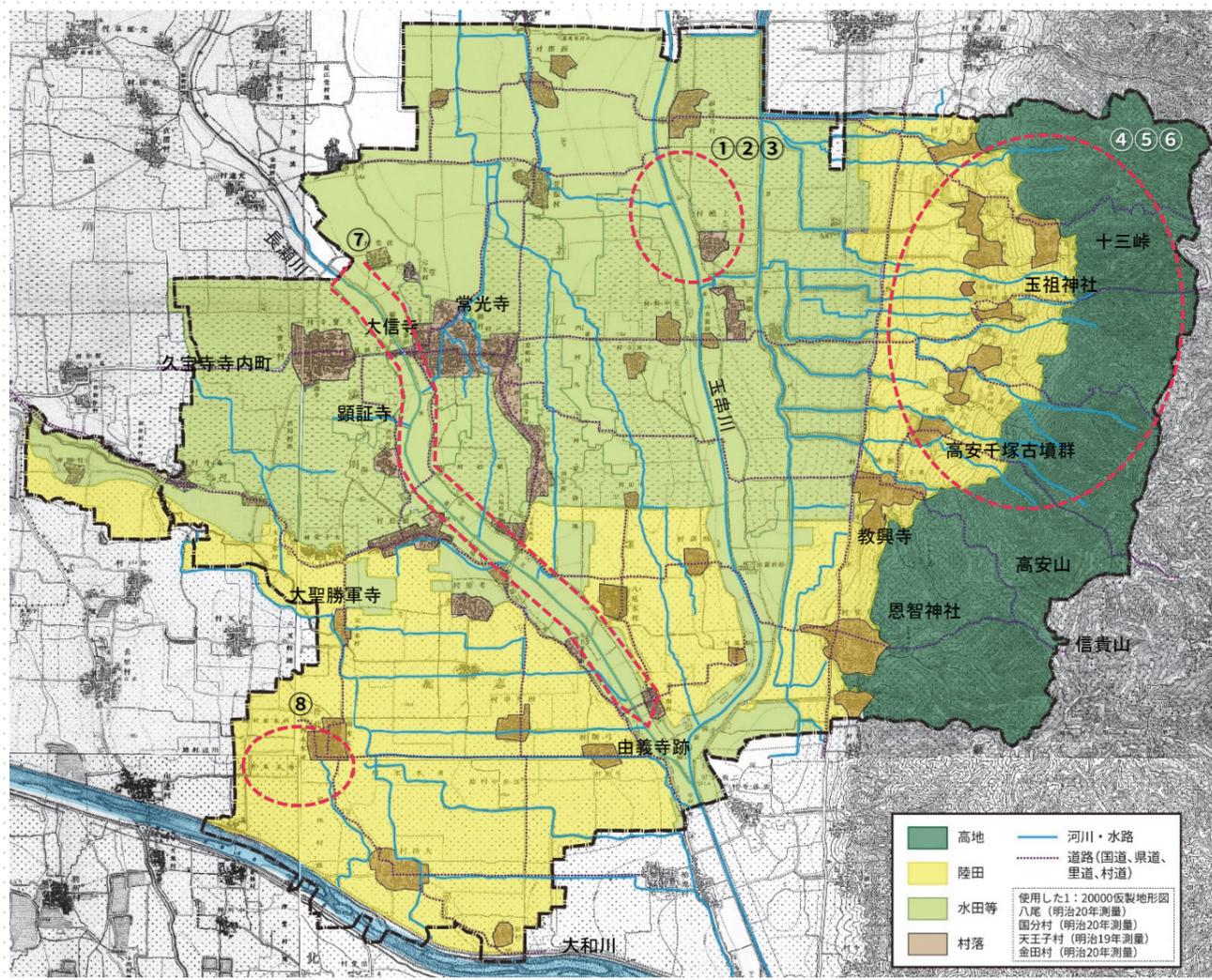
8 八尾空港西側の様子。中央に空港関連施設が見えます。周辺は未だ農地が広がっています。



1 玉串川周辺地域。玉串川沿いに区画が整理され、ゆとりのある敷地内に植栽された住宅地が広がり、さらにその周囲には農地が広がっています。中央左手に現在の山本小学校と山本高校、中央やや右には御野縣主神社の樹林地も見え、これらのみどりやオープンスペースは、今日においても市街地における貴重なみどりとなっています。



2 玉串川の桜並木は、当初、昭和40年に山本仲町会の町会員の寄付により植樹されたのが始まりでした。その後、住民を通じて周辺の町会へと植樹の輪が広がり、今日に見られる桜並木が形成されました。



八尾市のみどりの成り立ち図（「1：20000 仮製地形図（大日本帝国測量部）」（明治期）をもとに、当時の土地利用ごとに着色）



4 生駒山系の山麓部に、集落地や農地が広がっていることがわかります。



5 山麓部では、花き栽培を中心とした農地が広がり、その一部は今日においても残っています。



※写真はすべて昭和30～40年頃に撮影されたもの。